

いまだききの歴史

一番新しい日本の一ページ

「市」というステイタス?
京滋各地で検討されている市町村合併
いったい誰にとって喜ばしいことか?

この人たちに聞いてみたい
合併のメリット・デメリット



今、京滋は市町村合併ブームだ。京都府北部では峰山、大宮、網野、丹後、弥栄、久美浜町が合併して京丹後市に、滋賀県水口、土山、甲賀、甲南、信楽の5町が甲賀市（こうかし）に向けて動いている。また、米原町も山東、伊吹両町などとの合併が、京北町も京都市との合併へ向けて協議されている。そこで気になるのが合併のメリット・デメリット。合併資料には「住民の利便性の向上」「人材や財源の確保」「福祉医療社会の実現」「住民の日常生活圏の拡大」などが挙げられている。一方、デメリットは「役場が遠くなる可能性がある」「税金が高くなる可能性がある」「合併後、中心部と周辺部に格差が生じる可能性がある」「地域の文化・伝統が失われていく可能性がある」など。メリットと比べて、デメリットの方が、より具体的なのが気になる。本当に住民が上記のメリットを意識して合併を希望しているのか気になる。実は行政側が「町よりも市の方がええやん!」という町民の心理を利用して、厳しい財政難を乗り越えるための画策に必死というのが、実際なのでは?

手術ビデオ
ブラックボックスである手術室にメス
手術の一部始終の撮影サービス開始

神奈川県内の病院で手術の一部始終をビデオに録画し、患者本人に提供するサービスが開始された。始めたのはコミック「ブラックジャックによろしく」のモデルにもなった心臓外科医・南洲医師。「院内感染」「医療ミス」「リビーター医師」など、医療への不信が高まる今、インフォームドコンセントへの明確な動きとして注目されている。南洲医師は他にも患者と患者の家族に必ず自分の名刺を渡すなど、「社会人にとっては当たり前のことだが、医療の現場としてはまずない」アクションを実践。医療サービスと言われて久しいながらも、なかなか成熟しない医療サービスがここに来て改善されそうな予感だ。また、手術のビデオ撮影は、心臓手術のような大手術のスキルアップにも役立つはず（もちろん外部流出するのは言語道断だが）? 今後は開業医だけでなく、「派閥」「学園」「年功序列」に縛られがちな医師会病院や大学病院でも、こんな「サービス」に取り組んで欲しい。



京都府特産品アンテナショップ

指令：第二の京豆腐・生麩を生み出せ!!
京都府のマーケティング手腕はいかに?

和東町の茶や久美浜の乳製品、丹波の黒豆をご存知だろうか? これら地場産品は現在、販路が狭く、地元消費にとどまっている。そこで腰を上げたのが京都府。府内特産品の売れ筋をリサーチするためのアンテナショップを市内に設置する方針を固めた。9月のポルタを皮切りに、10月7~12日まではキタオオオジタウンで、来年2月19~24日は錦市場で特設店を設置する。これを今後、市内に開店する常設店の場所や規模の検討材料にするとか。思えば農産物に限らず、豆腐や生麩、京野菜なども地域の特産品。本来は流通に適していない生モノでさえ、物流の発展に伴い全国区の商品となった。ゆえに、京都市内で販路拡大できれば、茶や乳製品、黒豆などが売れる可能性もおおいにあるのだ。地域の特産品の流通をこのような形で京都府がサポートするのは初の試み。京都府にマーケティング能力と店舗プロデュースセンスが備わっていることを祈るばかりだが...



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP◎<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>